

“被災を経験していない”

三島市の平素の取り組みと 課題等について

静岡県三島市

企画戦略部 危機管理課

<三島市のまちづくり・重点プロジェクト>

1 防災・減災対策の推進

「自らの命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」

防災体制の強化と相互連携による安全・安心の確立

2 地域のきずなづくりの推進

市民一人ひとりが心豊かに安心して暮らせる心のきずなづくり

市民が主体的に地域の課題を解決できる、市民主体のまちづくり

3 「スマートウェルネスみしま」の推進

「ひと」も「まち」も「産業」も健康で幸せを実感できる“健幸”まちづくり

4 「ガーデンシティみしま」の推進

「水と緑」「文化と歴史」「富士山の景観」などに「花」を加えた美しく
品格のあるまちづくり

【共通のキーワード】

■ 市民力……「協働」「市民主体」

■ 職員力……「チーム三島」「横断的な連携」

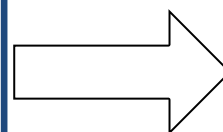
『大地震が発生した際、家に押しつぶされたりしてけが人が出ると思いますが、三島市には救急車は4台しかありません。消防職員は消火活動を最優先に対応します。市民の皆さん、ライフラインや通信網、あるいは道路が寸断されたり、有事の際には市役所はすぐには対応できません。ですから「自らの命は自ら守る(自助)」、「自らの地域は皆で守る(共助)」、このことに努めてください。』

～防災行事等で豊岡三島市長が繰り返し発言～

1 避難所運営の取り組み

避難所運営に求められるもの（課題）

- ・円滑な運営（避難所運営会議）
全指定避難所（23／24箇所）で毎年度開催（1箇所は旅客用）
参加：学校・市（現地配備員）・自治会・民生委員 等
- ・現地配備員（市担当職員）の能力向上
実践的な研修・訓練の実施……無線・建物の危険度判定 等
- ・東日本大震災の教訓：女性・高齢者への配慮
⇒女性の視点での意見交換会（24、25、26年度）
- ・マニュアル、対応方法、レイアウトの周知
⇒実践的なHUG訓練の実施（26、27年度）
実際に避難所となる学校のレイアウト図面を使用
実町名で課題を付与
- ・避難者数・要請事項の一元的な集約
⇒災害対策本部に避難所班を設置



反映

避難所運営基本マニュアル

①本文 ②様式編 ③資料編 ④避難所別図面、資料

《特徴》

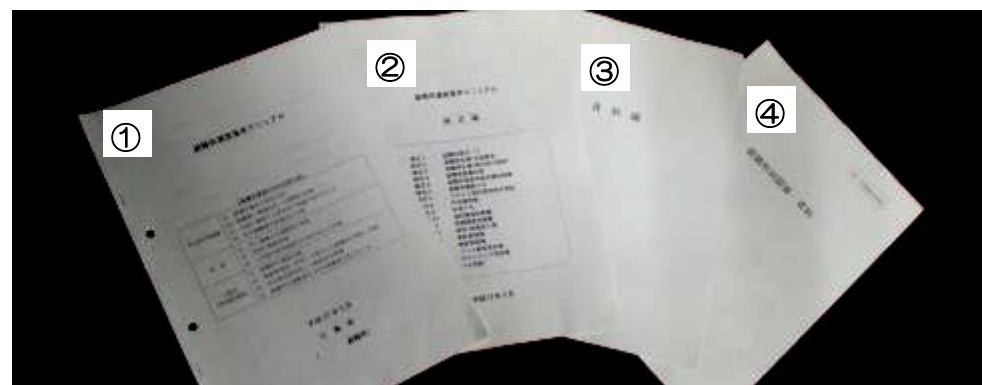
- ・レイアウト、町内ごとの居住スペース、生活ルール、組織、避難所の担当職員、各種様式（避難者受付、本部への要請）、要配慮者用・女性用チェックシート
- ・全避難所共通（本文・様式編・資料編）と避難所ごとの内容（組織・レイアウト・備蓄資機材・鍵の保管者・1時間後の集合場所）に区分
- ・一覧表により参集した人で優先的に実施すべき行動が分かるように記載
- ・避難所全体の業務の一覧による優先順位の明確化、表や様式の記載によるわかりやすい形式

市ホームページ：

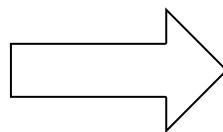
<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/bousai/detail000102.html>



女性の視点での防災対策意見交換会



避難所運営 基本マニュアル



実効性の確認が必要

避難所開設・運営訓練の実施

多くの住民に避難所運営を周知するため、市から訓練メニューを提案
地域の防災訓練と別に避難所開設・運営訓練を実施

(実績 : H25:6箇所 H26:13箇所 H27:18箇所(見込))

ー訓練内容ー

- 全体で実施
 - ・避難所開設の流れや各班の役割の確認
 - ・入室訓練 受付・名簿作成
 - ・避難所(体育館)のレイアウト作成
通路設置、町内割振り、部屋名表示、投光器設置等
- 班別実施(基本 9班)
 - ・水の確保の方法(受水槽給水、防火水槽ろ過)
 - ・簡易トイレ・マンホールトイレの設置
 - ・その他避難所運営機材の取扱い、発電機、災害時優先電話
 - ・防災倉庫の資機材・備蓄食糧等確認

- ①総務班 ②避難者管理班 ③情報班 ④食料・物資班 ⑤施設管理班
⑥保健・衛生班 ⑦要配慮者支援班 ⑧女性班 ⑨ボランティア班



避難所(体育館)のレイアウトを作成



仮設トイレ(マンホールトイレ)の設置



防災倉庫保管資機材の説明



受水槽からの給水
訓練

避難所用品の整備

課題： わかりやすい表示の工夫
マニュアル・必要用品の備付

・ピクトグラム（絵と色でわかりやすく表示）を使用した部屋名表示マーク



・あらかじめ避難所に配備

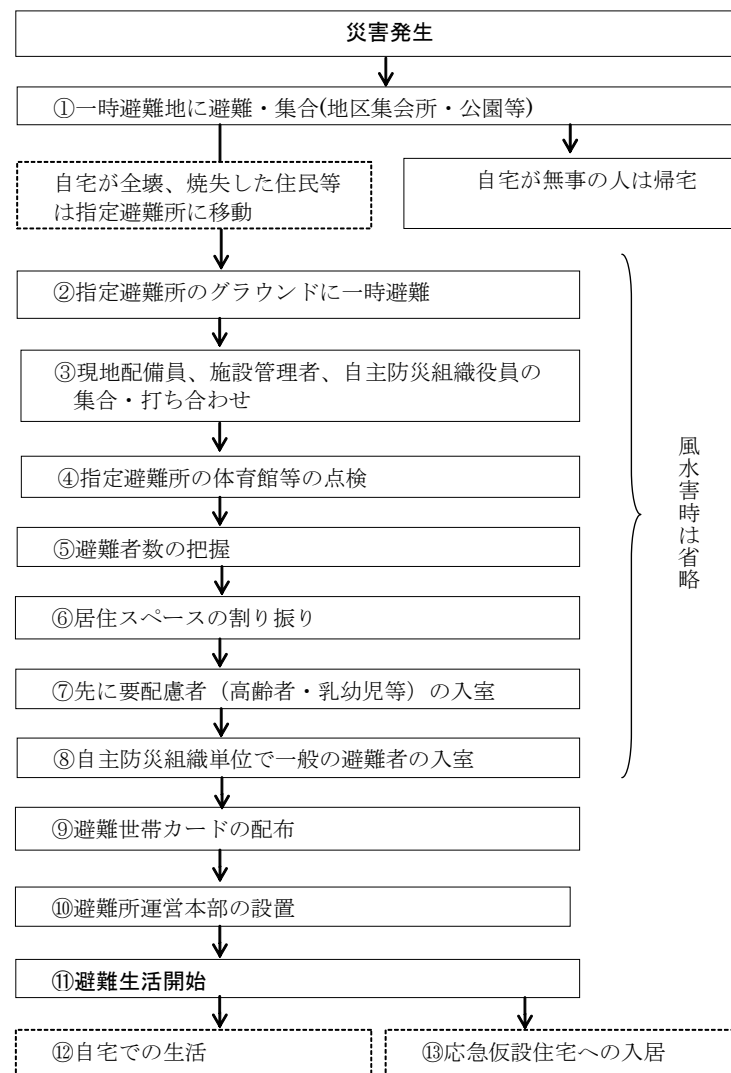


・用品はコンテナにまとめて保管



・各種様式を必要部数印刷

避難所開設までのフロー



三島市立錦田小学校 避難所運営委員会 の取り組み

課題：行政主導から市民主体の運営体制

- ・ 錦田小学校を避難所とする地域では、以前より避難所運営会議は開催していたが、地域住民の主導で、より実効性の高い組織作りを目指し、平成26年6月に避難所運営委員会を立ち上げた。
- ・ 当避難所運営委員会は、関係する14の自治会の代表、学校職員、市現地配備員で構成されている。
- ・ 自主防災組織における災害時の二元的対応（自治会内と避難所）が課題となっているが、各自主防災組織の役員とは別の役員を主に選出して委員会を組織し、自治会内の対応とは独立して避難所の運営に当たり、円滑な地域の災害対応が図られるよう活動している。
- ・ 避難所運営委員会の役員会（自主防災組織と学校）で会議を重ね、住民主導で訓練を実施している。

活動目的（内容） 規約より

1. 避難所の開設に当り、円滑な運営ができるよう努める。
2. 三島市の定める錦田小学校避難所運営基本マニュアルを元に、避難所開設の計画・研修を行う。
3. 避難所開設を想定して、関係自治会等及び関係機関と連携し、施設・設備の充実を図る。
4. その他、避難所運営機能を高めるための提言を関係機関に行う。



錦田小学校避難所運営会議 (H27)

学校支援地域本部事業

（平時から学校と地域の連携）

小中学校や子どもたちを支援するため、地域の皆さんがボランティアとして学校支援活動に取り組む体制

H26 6校、H27 17校で実施

実施内容

- ・ 花壇や工程の環境整備
- ・ 学習指導、補助



地域住民による授業支援(沢地小)

2 市職員の資質向上

(1) 現地配備員の研修・訓練

《役割》 ①避難所の運営支援 ②施設の安全確認
③施設管理者（学校）と協力した避難所の開設・閉鎖
④災害対策本部への報告・要請 ⑤避難者・在宅避難者のとりまとめ

参集訓練(4月)

- ・ 自宅から各避難所に徒歩等で参集
- ・ 災害時をシミュレーションをすることで、的確な職員の参集につなげるとともに、災害時の初動行動を確認する
- ・ 鍵、防災倉庫、備蓄品・食料、避難所運営用品等の確認
- ・ 参集状況を、行政無線及びファックスで本部に送信

研修(5月)

- ・ 円滑な避難所運営に資するため、年度当初に全現地配備員を対象に研修を実施する
- 内容
- ・ 配備体制の確認
 - ・ 現地配備員マニュアルの説明
 - ・ 避難所運営基本マニュアルの概要
 - ・ 備品の防災倉庫での保管
 - ・ 防災行政無線の使用方法
 - ・ 防災倉庫の鍵の配布（変更者のみ）

実地訓練(10月)

- ・ 避難所となる学校を会場に、現地配備員が避難所開設の初期行動を迅速に行うことができるよう基本的な技術を習得する
- 内容
- ・ 建物の安全確認（危険度の判定）
 - ・ 体育館のレイアウト設置、入室訓練
 - ・ ろ水機使用、受水槽からの給水
 - ・ 防災倉庫の資機材の確認、
 - ・ 発電機作動
 - ・ 簡易トイレの設置



マニュアルによる建物の安全確認



簡易トイレの組立て



発電機の作動訓練



受水槽からの給水



体育館内のスペース確認



簡易トイレの組立て



ろ水機の使用訓練

(2) その他職員（現地配備員を除く）の訓練・研修

実効性の高い訓練・研修の実施

年度当初の職員教育

- ・年度当初に各部署の危機管理体制を職員に周知するため、参集メールの登録、個別マニュアル・非常持出品・連絡網・配備体制等を確認

新人職員研修

- ・新規採用職員へ、市職員としての危機管理に関する基本事項を研修

水位監視班研修

- ・役割の確認
- ・現地の水位計の位置等の確認
- ・水害時の注意点、警戒の方法の確認



水位監視班研修

職員参集訓練

- ・全職員対象に、メール配信で参集を伝達
- ・自宅から可能な限り自転車や徒歩で参集
- ・本部員会議訓練も実施

情報処理訓練

- ・災害対策本部における大地震時や風水害時の情報処理の対応を訓練
- ・県、国土交通省、陸上自衛隊、警察も参加
- ・無作為・無差別に情報を付与して、対応班や関係機関に伝達し対応を訓練



職員参集訓練



情報処理訓練

オフロードバイク隊

- ・オフロードバイク隊は平成14年度設立
- ・市職員有志で結成、現在隊員19名
- ・大規模災害時にライフラインが寸断された中での現地での情報収集を行う
- ・走行技術及び情報収集能力を向上させるため、各種合同訓練を実施
- ・スマートフォン（ユーストリーム）を活用した現地から災害対策本部に動画配信



静岡市との合同訓練



スマホからの動画配信

3 自主防災組織の活動強化

目的：「自助」「共助」意識の醸成、活動の強化

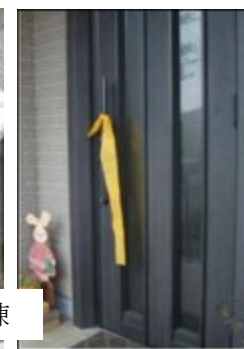
自主防災組織訓練・研修会

市からの呼掛けにより各地域で実践

- ・全自治会が自主防災組織を設置（78%の組織が自主的に訓練実施）
- ・「防災の日」等にこだわらず随時開催
⇒参加しやすさ、密度の濃い行政・消防の支援
- ・避難行動要支援者の避難訓練
- ・災害図上訓練（DIG・HUG）
- ・黄色いハンカチ作戦による安否確認訓練
- ・起震車体験、スモークハウス体験、AED講習会
- ・地域運動会と連携した啓発・訓練（防災クイズ・バケツリレー等）
- ・洪水、土砂災害を想定した情報伝達、避難訓練



黄色いハンカチ作戦による安否確認訓練



マンションでの
避難支援訓練



小中学生の訓練参加



起震車体験



マンホールトイレの組立て



救護訓練（AED）

《特徴的な自主防災組織独自の取り組み》

- ・シャルマンコーポ三島自主防災会 〔大規模マンション〕
建物の特性に合わせた対策・訓練、中高生でジュニアレスキュー隊を組織
- ・芙蓉台自主防災会 〔郊外の大規模住宅団地〕
要支援者（約30人）を助ける「支援ボランティアの会」を中学生含め70人で組織
- ・北沢自主防災会
災害に備え地域の事業所（建設会社、コンビニ、農家等）と協定を締結
- ・夏梅木自主防災会
ボランティア団体、大学生等と連携した研修・訓練（市民トリアージ）など

「自助」「共助」につながる意識啓発、その他の取り組み

防災知識の普及・自助の促進

防災出前講座

- ・ 市民一人一人の防災意識の啓発を目的に、自主防災組織や各種団体、学校、事業所に職員が出向き、防災講座を実施
- ・ H26 94団体に実施

出前講座	69
図上訓練	7
その他	18



出前講座（地域団体）



出前講座（小学校）

防災知識の普及・自助の促進

防災講演会

- ・ 市民の防災力を向上させるため防災講演会を開催
- ・ H25 過去に学び現代を点検し巨大地震に備える 300人
- ・ H26 災害時医療と市民トリアージ 170人
- ・ H27 伊豆半島（7市6町）防災シンポジウム多様な避難所運営 800人
- ※東日本大震災被災者発表



防災講演会（H26）



防災講演会（H27）
伊豆半島防災シンポジウム
（パネルディスカッション）

活動の活性化＝きずなづくり

地域コミュニティ連絡会

- ・ 各小学校区内（14校区）で活動する団体のリーダーが一堂に会し、地域の課題を地域で解決するための意見交換（年2回開催）
- ・ 自主的組織としての「地域コミュニティ協議会」の設置を目指す（H27.12現在1校区）



地域コミュニティ連絡会



地域コミュニティ協議会設立総会

女性の参画促進＝リーダー育成

女性まちづくり講座

- ・ 女性リーダー育成のための講座「女性まちづくり講座」（1期：2年間）を開催
- ・ 政策手法、課題設定、現状分析等を学び、最終的に市に政策提言
- ・ 提言を積極的に市施策に反映



講座風景



成果発表会

自主防災組織リーダー育成の取り組み

防災力アップ！ 人材育成講座

- ・地震・風水害に関する基礎知識をはじめ地域や各家庭で生かすことのできる実技を多く取り入れた「防災力アップ！人材育成講座」を開催
- ・H26、H27に4回の連続講座として開催（H27参加者：36人）

主な実施内容

- ・大学教授やNPO、市職員・消防職員等による防災に関する各種講義
- ・災害時に役立つ実践的な実技講習
市民トリアージ、家具の固定、放水訓練、ロープワーク救命講習、救護活動、重量物除去、避難所運営（レイアウト、給水訓練、仮設トイレ設置）



避難所レイアウト作成



避難所ろ水機の使用



身近な物を使用した応急措置



重量物除去(救出)訓練

課題：地域で活躍する防災リーダーの育成

自主防災組織リーダー研修会

- ・災害時における救助、救出、初期消火、避難所運営等の中心的役割を担う自主防災組織の役員、自治会長、防災委員等を対象に、防災組織の基礎知識の周知や図上訓練等を実施
- ・全組織を対象に、毎年度8～11会場で開催（H27参加者：444人）
主な実施（応援・協力：三島市防災指導員）
 - ・H25 図上訓練（HUG）
 - ・H26 防災マップの見直し
 - ・H27 図上訓練（HUG）……実際のレイアウトを使用
 - ・H28〔予定〕 市民トリアージの啓発・訓練



実際のレイアウトを使用した避難所運営

支援・協力

自主防災組織防災資機材購入費補助金

県主催講座受講者への補助金

防災指導員の活動・協力 ボランティア指導 18人

4 住民啓発・教育事業

課題の把握と対応

まず「自助」の意識について

「市民意識調査」アンケートで毎年度確認

- ・「家具の固定」
- ・「飲料水・食料の備蓄」

飲料水・食料備蓄の啓発

- ・ローリングストック法の活用による7日分の備蓄を出前講座やチラシで啓発
- ・期限切れ間近の市で保管する災害時備蓄食料は、啓発のため防災訓練や講座を実施する自主防災組織等に配布

※H27からは、備蓄食料を「NPO法人フードバンクふじのくに」に提供



防災力強化につながる市民意識の醸成

(新規) ママが楽しく学ぶ防災講座

小さい子供を抱えた方は、一般の訓練や講座に参加することが難しい

↓ 意見交換会（女性意見の具現化）

- ・子供と一緒に受けられる講座
- ・複数回の開催により受講日を選択できる
- ・託児の完備
- ・子供のために心がけてもらうことを啓発

(H27～)



子供と一緒に受講



まちの中の危険を散歩してチェック

家具転倒防止対策事業

- ・高齢者世帯等に対し、家具固定具等5品の取付け費用を助成
- ・家具類転倒防止器具の見本を展示したパネルを購入、各団体へ貸出して啓発

家具転倒防止対策事業による固定具取付け



子ども用防災バッグ



これらのほか、非常持出品、リュック、紙芝居、かるた等を各団体に貸出して啓発



家具転倒防止啓発パネル

5 遺体の措置・訓練

関係機関等との協議・連携による実効性の高い計画改訂・訓練の実施事例

東日本大震災の教訓

被害想定・BCPによる人員確保

⇒既存計画では対応不可能

関係機関等との連携

災害時遺体措置関係機関連絡会を組織

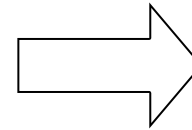
警察署、県、医師会、歯科医師会、葬祭業者、
霊柩自動車協会、市（市民課・健康づくり課・危機管理課）

遺体措置計画 （全面改訂）

H27. 8

- ・ 遺体安置所等「場所」の見直し及びレイアウトの作成
- ・ 役割分担の明確化
- ・ 準備物の精査

実効性の確保

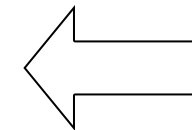


遺体措置訓練

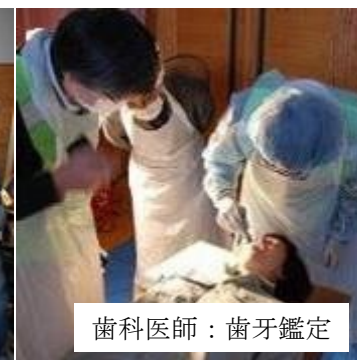
H25～27 総合防災訓練の中で実施

H27. 11 三島市遺体措置訓練の実施

災害時遺体措置関係機関連絡会の各機関と合同で、実際の遺体安置所を会場に、計画の手順沿って実施



改善



三島市遺体措置訓練 (H27. 11. 1)

6 福祉避難所の設置・運営

課題の把握と対応

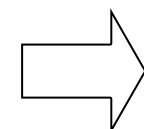
東日本大震災の教訓

- ・ 避難所における関連死の増大
- ・ 要配慮者へ更なる配慮の必要性

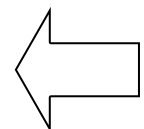
平成25年度～ 庁内関係各課で協議

関係機関との連携

H27. 5月～6月 福祉避難所の各施設に事前説明し、意見交換



意見反映

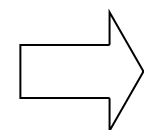


福祉避難所設置・運営マニュアル

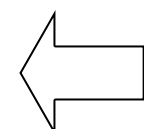
(H27. 8 策定)

《特徴》

- ・ 民間福祉施設と共有するマニュアルであるため、分かりやすい構成、記載方法に配慮したこと
- ・ 市・福祉避難所・家族・自主防災組織等の役割を明確化したこと
- ・ 指定避難所の避難者の状況調査及び開設後の職員配置を明確化したこと



意見反映



実践・検証

福祉避難所設置運営訓練の実施

H28年度中 予定

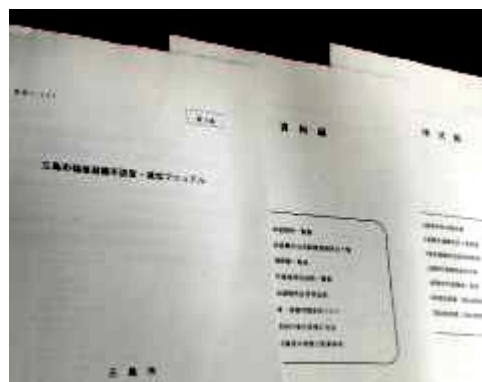
防災資機材整備事業補助金による資機材の整備

課題

- ・ 福祉避難所施設（協定民間福祉施設）の不足解消
- ・ ボランティア等人材の確保
- ・ 医療関係機関との連携



福祉避難所（佐野あゆみの里）ほか24施設



民間保育施設で整備した発電機等

7 避難行動要支援者対策

課題の把握と対応

東日本大震災の教訓

- ・ 高齢者、障がい者など要配慮者に被害が集中
- ・ 要支援者への配慮の必要性

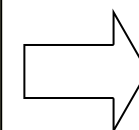
災害対策基本法の改正 (H25年6月)

による法的位置付けの明確化

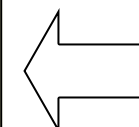
避難行動 要支援者計画 (H27.3 策定)

誰が誰を助けるかを地域で確立

避難行動要支援者の避難支援を迅速かつ的確に行うため、平常時から情報を把握するとともに、防災情報の伝達手段・伝達体制の整備、避難誘導等の支援体制を確立する



意見反映



実践・検証

自治会連合会・民生委員合同会議

- ・ 各役員とマニュアルの確認
- ・ 課題の検証と対策の検討
- ・ 意見交換

課題（自治会の手間・不安解消）

- ・ 個別計画の策定（支援の担い手）
- ・ 守秘義務関係
- ・ 名簿情報提供の不同意者への対応

避難行動要支援者の 支援活動マニュアル

自治会や民生委員が連携して避難支援活動を行うための手順書

活動内容（役割分担）、名簿・計画等の作成、支援行動のフロー、Q & A等を掲載



自治会連合会・民生委員合同会議

8 水防対策

避難所開設に直接的に関わる対策・取り組み

課題の把握と対応

H26. 8 広島土砂災害 等

避難勧告等の判断基準が不明確

住民への伝達方法が不明確



風水害時における体制を整備

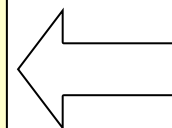
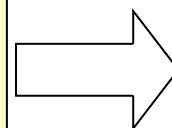
- ・ 災害対策本部情報処理の流れを確立
- ・ 台風災害等に対応するタイムラインを策定 (H26)
- ・ 水防計画への反映、風水害対応マニュアルの整備
- ・ 水防体制庁内連絡会議

風水害時の 避難行動等の 判断・伝達マニュアル (H27. 3 策定)

《特徴》

- ・ 地震と風水害時の避難場所を明確化
- ・ 立ち退き避難と屋内安全確保の避難の方法を明確化
- ・ 避難対象地区の連絡網を位置づけた
- ・ 早めの避難を呼びかける避難行動要支援者施設を整理した

実効性確保



改善

実践・検証

避難行動説明会 H26～27
土砂災害危険区域10回 (480人)
浸水想定区域 9回 (238人)

- ・ 危険区域の確認
- ・ 避難勧告、指示等の概要
- ・ 避難場所の確認
- ・ 市からの情報伝達手段の確認
- ・ 平常時、災害時の関係住民の行動

避難行動伝達訓練 H27. 6

- ・ 34団体、1,326人参加
- ・ 情報伝達、避難訓練等を実施

社会福祉施設避難行動説明会 H27. 8
・ 14施設参加



水防訓練



浸水想定区域避難行動説明会



避難行動伝達訓練



社会福祉施設避難行動説明会

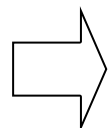
9 災害協定の推進

外部からの応援・受援体制の整備

課題の把握と対応

東日本大震災等の教訓

- ・自治体間の連携の重要性（自治体のことは自治体が一番詳しい）
- ・特に、同一災害で被災しない地域かつ1日で移動が可能な地域との連携が必要
- ・帰宅困難者、観光旅客等への対応が重要
- ・災害復旧等を担う民間事業者との連携強化

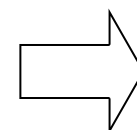


地方自治体災害協定 20件

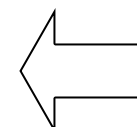
近隣市町との連携(10件)
遠隔地の市との単独協定(4件)
全国的なネットワーク(3件)
県立高校との避難所覚書(3件)

民間事業者災害協定 86件

情報の収集・伝達(6件)
食料・生活必需品の調達(14件)
物資の緊急輸送(6件)
救出救助・医療救護(5件)
施設設備の応急復旧(10件)
被災者・拠点施設の提供(30件)
その他(15件)



意見反映



実践・検証

協定自治体の訓練への参加

- ・総合防災訓練への参加
(年2市程度)

電車乗客の避難誘導訓練

- ・災害協定に基づく沿線4自治体及び鉄道事業者による合同の訓練

協定団体との意見交換

- ・毎年度、既存の協定を締結している各事業者に三島市への意見協定内容等の見直し等を照会



栃木県佐野市との災害協定締結式(H27)



㈱TOKAIとの災害協定締結式(H27)



東京都狛江市総合防災訓練に参加(H27)



鉄道事業者と近隣4市町による訓練

10 総合防災訓練

平成27年度訓練

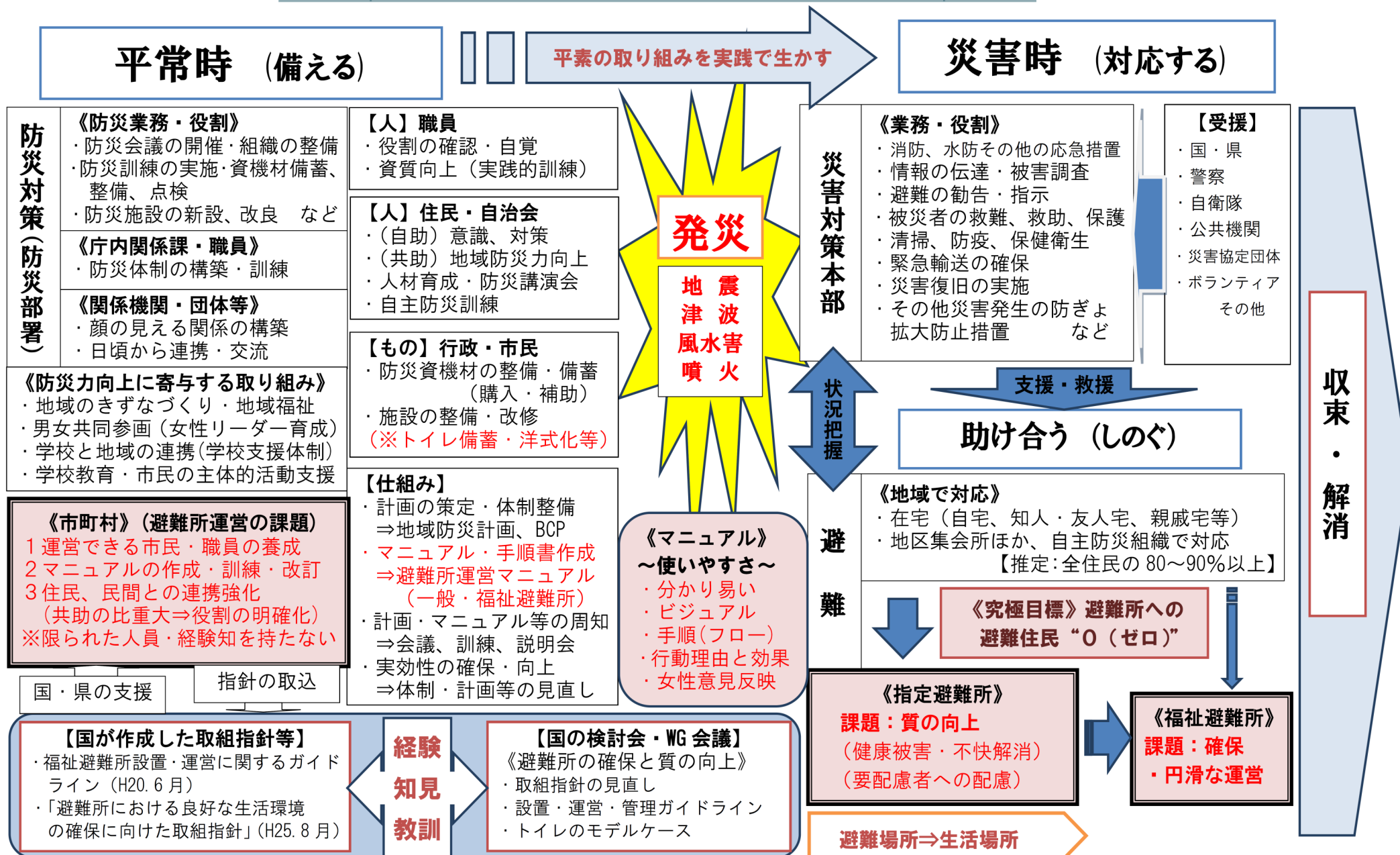
目的

- ・ 防災関係機関、協定自治体及び自主防災組織との連携を一層強化すること。
- ・ 市民の防災に関する知識・技能の向上を図ること。

特徴

- ・ 各種被害対応型の実践的訓練
- ・ 市民への啓発内容の充実
- ・ 地域住民によるペットの同行避難訓練（新規）
- ・ 実際に使用する学校の救護所スペースを活用した救護所の





静岡県三島市の災害用トイレの数

資料2

災害用トイレ合計613基



簡易組立トイレ

和式 250基

マンホールトイレ

5施設

洋式 33基

車いす対応 12基

合計 45基

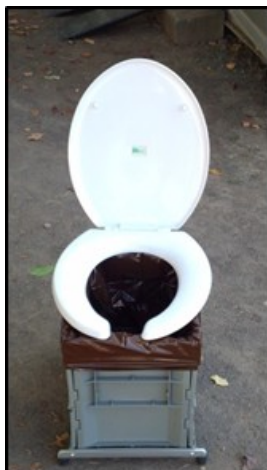


便座ワンタッチトイレ

洋式

290基

- ・凝固剤 60袋
- ・吸収シート60枚
(17,400回分)



体育館の
洋式トイレ

28基

処理袋・凝固剤
(106,400回分
あり)

三島市の避難想定人数（最大）

1週間後 避難所 8,260人

$8,260人 \div 613基 = 13.4人 / 基$

◎三島市では、仮設トイレ、非常用排便収納袋は自主防災組織への補助対象としており、避難所以外のトイレ確保にも努めている。

資料提供：静岡県三島市 平成27年11月末現在

資料3

三島市公式ホームページ

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/>

せせらぎと緑と元気あふれる協働のまち
三島市

文字の大きさ: 標準 大きく もっと大きく

携帯サイト 各課から探す

サイト内検索 検索キーワードを

ホーム 暮らし・手続き 健康・福祉 子育て・教育 まちづくり・産業 市政情報

緊急情報 現在情報はありませぬ

地震・防災情報 安心・安全 危機管理情報ポータル

市長のページ

市議会

教育委員会

消防広域化

三島市の人口・世帯数

12月14日オープン
日本一の大吊橋
三島スカイウォーク

全長400m 日本一の大吊橋がオープンします

くらしの手続

三島市 防災・危機管理情報

三島市トップページ

地震防災トップ 災害緊急情報 自助 共助 公助 被害想定・地図 よくある質問 リンク集

ホーム > 地震防災トップ

防災SNS情報

市民メール

フェイスブック

ツイッター

Yahoo! 防災ブログ

防災リンク

気象情報

雨量・水位情報

交通情報

ライフライン

国・県

防災情報

関係法令

災害から身を守ろう (気象庁)

申請書ダウンロード一覧

緊急情報

現在、緊急情報はありませぬ。

新着情報

- 2015年12月16日 ママが楽しく学ぶ防災講座
- 2015年12月15日 東京都江崎市防災訓練に参加しました
- 2015年12月11日 家庭で行う地震防災対策を確認しよう
- 2015年12月07日 視察地見学会及び説明会を実施しました
- 2015年11月27日 伊豆半島7市6町首長会議 第3回伊豆半島防災シンポジウム

一覧ページへ

自助

- 地震対策
- 風水害対策
- 事業者(自助)の対策
- 災害情報の取得方法
- パンフレット

共助

- 災害時対策
- 平常時対策
- 訓練・出動講座
- 自主防災組織防災資機材
- 避難所運営
- 自主防災活動好事例集

公助

- 防災ニュース
- 計画・マニュアル
- 条例・規定
- 地震対策
- 三島市の防災対策
- 被災者支援
- 東日本大震災に関する対応

三島市危機管理情報

261 いいね! の数

危機管理情報ページ

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/bousai/>